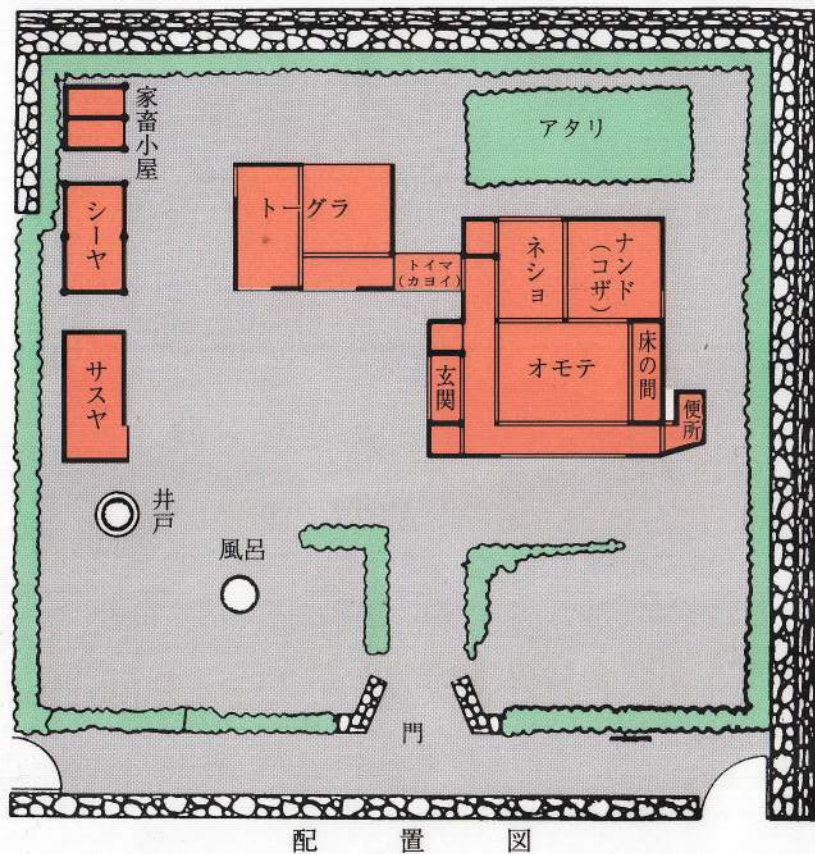
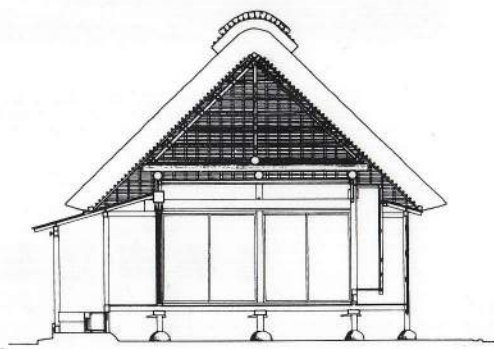


# 奄美の民家



トイグラ復元 縦(南北)断面図



オモテ復元 横(東西)断面図

瀬戸内町管鈍に残っていた眞島家の民家(「オモテ」のみ)を移築、一部を学習活動のためにアレンジし、復元したものである。

明治27・8年頃建築され、昭和2年に玄関、便所を取り付ける改築をし、昭和31年カヤ葺き屋根からトタン葺き屋根に替えた。屋根裏の棟には「紫微しびらんからんか 鸞駕 昭和三十一年十月二日・八月二十八日吉日上棟々梁英岡伊三郎」と記されている。

奄美の民家は、「オモテ(主屋、座敷)」と「トイグラ(台所、居間)」の二棟、あるいは「ナカエ(ヤ)」を入れた三棟を主体に構成されている。「オモテ」と「トイグラ」は「トイマ、カヨイ」等と呼ばれる渡り廊下でつながれ、屋根の間に木をくり貫いた樋(トイ)をつるして雨に濡れないようにしている。他の地域ではこの二棟は独立して建っている場合もあれば、接続している場合もある。他に「家畜小屋」、煮炊きや軽作業をする「ジーヤ」、床の高い穀物倉庫「高倉」等が配置されるが、管鈍地区は台風の風当たりが強い所で、高倉はあまり作らない地域である。高倉の代わりに「サスヤ(物置、倉庫)」を配置している。

「オモテ」の背後に「アタリ」とよばれる菜園、前方に庭や池を配置し、屋敷の周囲や門はサンゴの石垣を積んだり、ゲッキツや他の植物で生垣にしている場合が多い。

眞島家の場合、風呂はもともとなかったが、昭和初期に五右衛門風呂が設置された。また、井戸も作られたが、飲料には適さなかった。

柱を桁(ケタ)や梁(ハリ)等に貫通させる「ヒキモン」という構造や、「クサビ締め」等の方法で骨組みを固めて釘を使わないのが特徴である。

奄美ではアカモモ(モッコク)、ユス(イスノキ)、イジュ、タブ、ヒトツバ(イヌマキ)等の木を建築材として重宝している。